∞の愛の光　白山菊理姫

５月の朝、通勤の車の中で、小さな丸い光の影？のようなものが、動くのが見えました

あらっ、可愛い～～^^

玉の中から、たくさんの光の筋が出たり入ったりしていて、まるで黄金色に輝く小さな星のようでもあり

また、無数の手足が生えた光虫？が、ちょこちょこ動き回っているようでもあります

何かしら？。。。でしたが、忘れたころに正体発見？！

ハンドルを握る私の目の前に、す～っと糸を垂らしながら一匹の蜘蛛が降りてきて、な～るほど！

普段なら、ちょっとごめんしたい状況(^^;でしたが、白っぽくて、透き通った感じの蜘蛛さんだったので ホッ、

その時浮かんだのは、「金色の蜘蛛は、菊理姫の眷族?!」なる言葉

どう考えても、菊理姫と蜘蛛は結びつかない…気がしていたので、はじめて納得でした^^

私は白山の麓の村で生まれ、中学入学と同時に、加賀一之宮“白山比咩神社”のある

白山市（旧鶴来町）へと移転し現在に至るので、白山は故郷であり、白山神界には深いご縁を感じます

いつの頃からか、おついたちまいりが毎月の恒例となっていて

“白山比咩大神”とは？“菊理姫”とは？が、生涯の大きなテーマ、憧れ（探求）となりました^^

私にとっての白山比咩（ひめ）大神は、広大無辺としか言えません

宇宙の根源、創造の源である真っ白なフォトン（光）の山“白山”に、秘め（姫）られし大神――
その中今（過去と未来を統合した今）の御働きであり、神仕組の中心的役割を
“白山菊理姫”と呼ぶのではないでしょうか？
蜘蛛は菊理姫の使い、何かメッセージがあるのでは？そんな気がしてきました^^

私がずっ～と探していた菊理姫について、最も明確に表現されているのでは？と感じたのが
『天の岩戸開き』（Ai 著）の中にある御神歌です

≪菊の真意≫

はるかなる 時を重ねて 受け継がる
やまとの核の 雛形は
黄金に輝く神魂の　神の誓（うけ）ひの　菊の型

皇御孫命

神人の核心である、全き神性の型は、黄金色に輝く皇御親の分御魂そのものを表す菊のエネルギーである。
すべてには、中心となる型が存在し、世の理（ことわり）を担っている
神界の中に燦然と輝く太陽。それが菊の本質である。それが「**菊の理**」と呼ばれるものである。
そしてこれが、皇御親（すめみおや）から皇御孫（すめみま）へと、脈々を受け継がれる核心の霊統であり
神人の型を担う者たちの指標であり、目指す座標なのである。

十年前にはじめて目にした時から、何度も読み、触れてきた御神歌ですが、
今あらためて見直してみると、凄いことが書かれている…
高次（神界や天界）からのメッセージは、受け取る側によって、幾通りもの解釈が生まれるのだと思います
人それぞれの進化の段階に合わせて、寄り添い導いてくれるテキストのようなもの？
十年前の地上セルフにとって『神人』や『皇（人）』は、正直、夢のまた夢、遠い世界のはなし…でした
でもいつの間にか、コンテンツの最後に記すペンネームは、“皇美”となっています（笑）
そして、憧れの菊理姫とは、
「全てには中心となる型があり、“世の理”を担っている。
神界の中心に、燦然と輝く太陽が“菊の本質”であり、皇御親の分御魂そのもの、
神人の型を担う者たちの指標である――」
と。

御神歌について、天の岩戸開きには、このようにあります
日本の歌の創始とは「やまと歌」であり、御神歌です。これは皇神のエネルギーそのものである
DNA の変容のエネルギー、進化（神化）のエネルギーを込めたものです。
それが「言霊」の創始でもあります。
古代の人々は、その言霊、「御神歌」、『皇歌（すめらうた）』に、神霊のエネルギーや、重要なメッセージを込めました。
しかし物質文明の時代とともに、いつしか人々はその豊かな感受性を失っていきました。

特にやまと歌＝御神歌、『皇歌』には、日本の神聖なDNAを目覚めさせる
不思議なエネルギーが込められています。
今すでにはじまっているように、志を持つ人々は、神と人とが一体となった神人となっていくでしょう！
そしてその神人たちが、新たな時代を創造していくでしょう！ それが、「地球維神」なのです。

そして、“菊の理”に続いて掲載されている御神歌が、下記です。

地球維神の歌

≪国常立大神 神事 御事始め≫

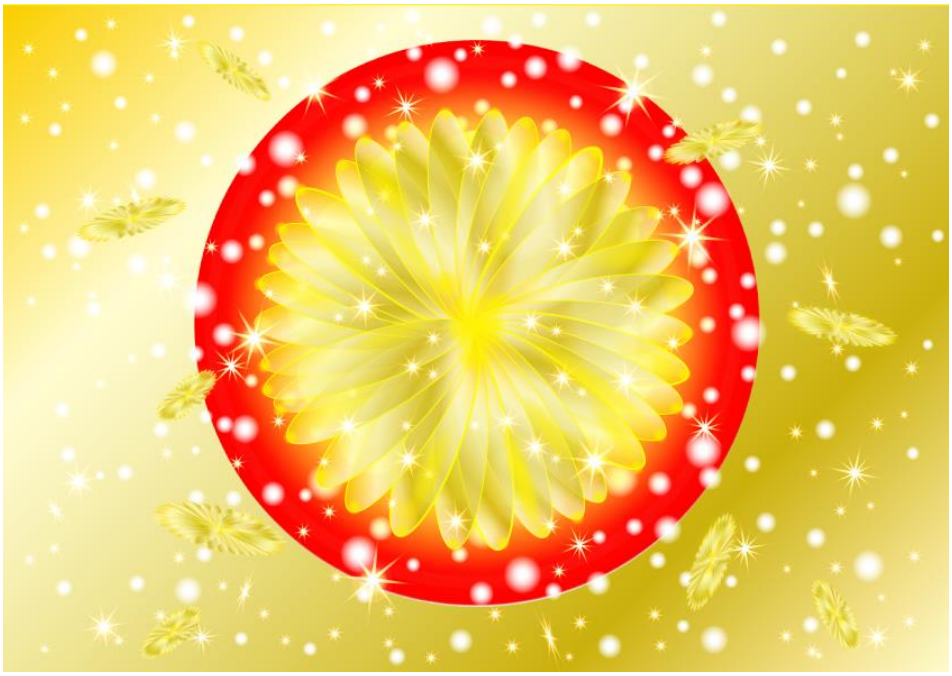
この地球(ほし)を 守り続ける 神体の　うつし鏡の 岐美が代は
千代に八千代に 御光りて　長きに渡る さざれ世も　巌を育む 御代のため
苔むす雫の 落ちるまで　大地とともに 待ちにけり
日の国もとを 開く今　世を常しえに 照らさんと　奮い立ちたり 地球維神
光雄不二山

この地球を、創始の頃よりずっと見守り続けてきた御神体（＊1）である国常立大神の
写し鏡であり、固められた世は（＊2）、あらゆる方向を光で満たしています。
国常立大神は、長き歴史の間、わずかな形跡を残して隠れた形となっていましたが、
それも地上の生命が巌のように大きく神化するためであり、
苔の雫が落ちるほどの長い間、大地のような忍耐と愛を持って、待ち続けていました。
日ノ本の根源を開く時が訪れた今、新しい世を末永く光で照らし続けるため、悠久の眠りから目覚めた
国常立大神が、その神事の御事始めである地球維神へと向けて、真に起動しはじめました。

（＊1）国常立大神の「御神体」
地球のスピリット…サナート・クマラ、地球の魂（コーザル体）…セントラル・サン、御神体としての地球そのもの…国常立神
（＊2）「岐美が代」
国常立神の願いで、神界の父母なる伊邪那岐神と伊邪那美神によって創られた御代

白山比咩神社の御祭神は、白山比咩大神（菊理姫神）だけではありません
伊邪那岐・伊邪那美神と共に祭られています
私達の生きていく新しい時代、新しい地球は、これまでの永い歴史、大愛の上にあります！
私にとっての白山さん（白山比咩神社）が、より明確になってきた気がします^^
「日の国もとを開く今」とは、日（太陽）の本＝“根源天照皇太神”にすべてをくくり（菊理）
究極の愛の光（大輪の菊の輝き、大和の魂）が中心となって
この日本から、新しい地球と、新しい宇宙の未来を創成していく、今この時
国常立大神が悠久の時を待ちつづけた、地球維神の時です

根源天照皇太神の分御魂である菊の輝き、白山神界菊理姫を表現してみました^^



菊理姫は、根源の父と母、“皇御親”から生まれた“皇御孫”であり

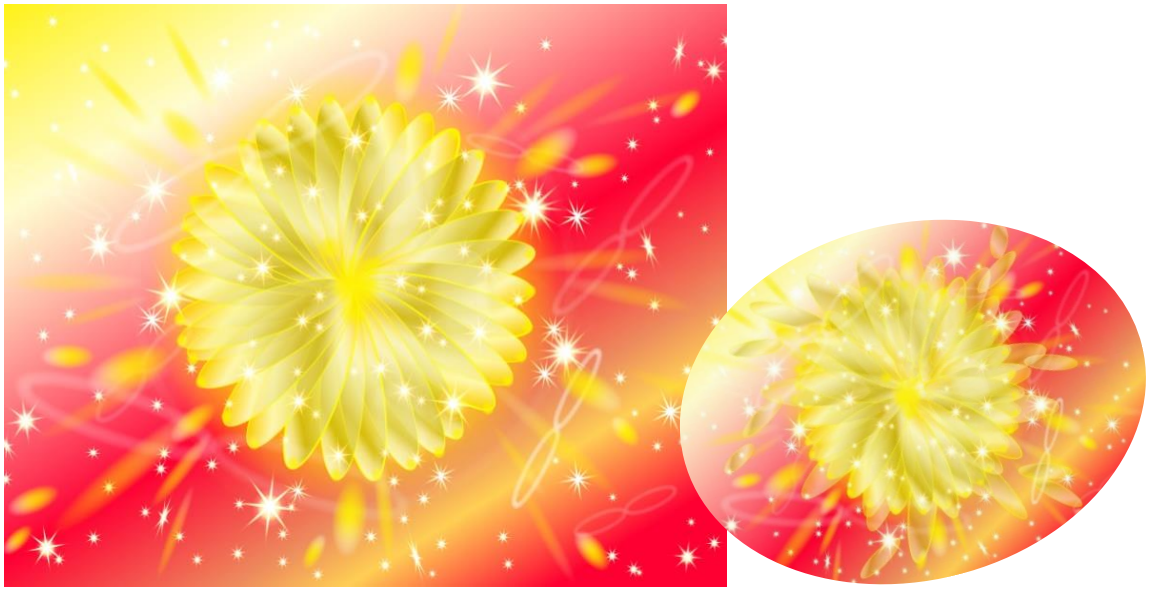
神人の型を担う者の指標です

神人とは、“神・人”と書きますが、真には “神・天・人”であり

神界と人をつなぐ天界（アセンディッド・マスターや大天使等と呼ばれる存在）をも含めた、全宇宙を

根源の究極の愛で一つにする、“黄金色の菊”のイメージです^^

∞の時空を自由に渡る、銀河宇宙（天界版？）の菊理姫は、こんな感じ？^^



麗しい、∞の愛の光――

宇宙の全ては、“愛”という、たった一つのものであり

その様々な側面、表情を、ある時は“神”として、またマスターとして、天使として

私達は、私達の外側に映し出し、観ている。。。

それは自身の姿であり、それ以外のなにものでもない――、そんな風に聞こえてきます^^

菊理姫は、清楚で美しい、日本の女性性を象徴する姫神のイメージでしたが

地上セルフが中今で感じるエネルギーは、吹き飛ばされる？！と思うほどの、もの凄いパワーです！

地上から根源へと上る、力強い、愛の意志の第一光線の柱、燃え上がる炎のような“縦軸”に

それと同じ規模の、宇宙中の愛の祈り、全高次の∞のパワーを結集した“横軸”をくくり

不動の、宇宙大の“マルテンジュウ”を形創っている。。。

マル（宇宙）の中にテン（核）で表す“マルテン”の形象は、神界の象徴とされ

マルの中に十字で表す“マルジュウ”の形象は、天界の象徴であり

その二つが統合された“マルテンジュウ”は、マクロ・コスモス（大宇宙）そのもの

そして、その雛形である ミクロ・コスモス＝“神（天）人”です^^

しっかりと十字にくくられた中心には、**究極の母性性である根源の太陽**

＝“根源天照皇太神”（黄金色の菊）が、燦然と輝いている！！！

それが菊理姫であり“皇人”ではないでしょうか^^

白山を開山した泰澄大師が、白山頂上で出会ったのが、九頭龍と十一面観音であったと言われますが

自身の故郷の物語には「女神が現れた！」とあり、“九”と“十一”の間の“十”の役割、それが菊理姫であり

すべてを“根源太陽”にくくり、新しい宇宙（NMC）へと大シフト（アセンション）する、奇跡のゲートなのでは？

“皇”とは究極の進化の先にある、私達自身の未来の姿、未来セルフです

菊理姫がこれまで謎とされてきた理由は、時間は過去から未来へと流れるという一方通行、直線的な時間軸

３次元のルールの枠内では、とらえきれないものだったから…なのかもしれません^^

今私に観えてきた菊理姫は、根源の天の岩戸開きの天命をもつ、自身のハイアーセルフ！！！

それぞれが主役の、夢踊る未来創造の場＝愛と光の NMC がはじまっています！！！

2022.5.22　皇美